

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年03月31日

計画の名称	横浜港における賑わいの拠点づくり												
計画の期間	平成28年度 ~ 平成32年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	横浜市												
計画の目標	<p>横浜の成長エンジンとなる都心臨海部では、客船による賑わいに加え、それらと連携した観光・MICEを中心とした賑わいづくりを目指しています。</p> <p>そのため、PFI・PPP（公民連携）の活用による民間投資の誘発促進が見込まれるMICE施設に関連する緑地等の整備を進めます。</p> <p>山下ふ頭の再開発においては、広大な開発空間や穏やかな水域、高い交通利便性、良好な景観などを生かし、これまでの横浜にないハーバーリゾート形成を目指します。</p> <p>その形成に向けて質の高い魅力的な空間を創出するため、港湾緑地等を整備します。</p> <p>市街地と港が近接している横浜港の特性を生かし、魅力的な水辺空間を創出することで、市民に親しまれ、賑わいのある港づくりを進めます。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	777	A	777	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28当初	H30末	H32末
1	<p>ペDESTリアンデッキの整備により、大規模イベント開催時にMICE関連施設から発生する歩行者交通が分散され、安全で快適な歩行が図られます。</p> <p>大規模イベント開催時にMICE施設から発生する50街区内通路の歩行者交通量</p>	0人/hr	0人/hr	12000人/hr
2	<p>臨海部緑地のネットワークが充実し、利用者数が増加します。</p> <p>臨海部緑地の利用者数</p>	97万人	97万人	130万人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
港湾事業	A02-001	港湾	一般	横浜市	直接	横浜市	戦略	建設	緑地整備(山下ふ頭緑地・緑地)その1	実施設計	横浜港・山下ふ頭地区						19	-	
	A02-003	港湾	一般	横浜市	直接	横浜市	戦略	建設	道路整備(キング軸)	歩行者専用道路整備W=8m、L=101m	横浜港・内港地区						637	-	
	A02-006	港湾	一般	横浜市	直接	横浜市	戦略	建設	緑地整備(杉田臨海緑地)その1	緑地整備0.9ha	横浜港・磯子地区						57	-	
	A02-009	港湾	一般	横浜市	直接	横浜市	戦略	建設	緑地整備(大黒ふ頭西・中央緑地)	緑地整備1.3ha	横浜港・大黒ふ頭地区						64	-	
	小計																777		
	合計																777		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施。	令和3年3月
	公表の方法
	横浜市ホームページへ掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備（キング軸）により、歩行者専用道路が整備され、臨港パーク及び周辺街区へのアクセス機能が強化された。 ・MICE施設や臨海部緑地でのイベント等の開催が活性化し、臨海部緑地の利用者数も順調に増加しており、道路整備（キング軸）による新たな歩行者動線の整備によって更なる賑わい創出が期待できたが、新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響を受け、多くのイベント等が自粛もしくはキャンセルとなった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業で整備した女神橋が令和2年12月に一部供用を開始するなど、臨海部緑地や賑わい施設を結ぶ新たな歩行者ネットワークが構築されている。
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・MICE施設等でのイベント等の開催状況や臨海部緑地の利用者数の推移等を適切に考慮し、必要な事業を実施していく。 ・メリハリをつけて事業を実施したため、整備計画期間内に実施できなかった事業については、社会経済情勢等を踏まえ、実施を検討していく。 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	12000人/hr	MICE施設と50街区を結ぶ歩行者通路は、令和2年4月に開通したが、新型コロナウイルス感染症により、MICE施設での大規模イベントの開催が自粛となったことで、実績値を得ることができなかった。
	最終実績値	0人/hr	
2	最終目標値	130万人	令和元年度の臨海部緑地の利用者は120万人に達しており、令和2年4月以降のMICE施設（パシフィコ横浜ノース等）の関連イベント等によって、更なる利用者の増加が見込まれていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の利用者数は大幅に減少した。
	最終実績値	55万人	

参考図面

計画の名称	横浜港における賑わいの拠点づくり		
計画の期間	平成28年度～平成32年度 (5年間)	交付対象	横浜市

